



保湿よりも大事！？保湿剤の新しい効果

アトピー性皮膚炎患者さんの皮膚が乾燥しやすいことはすでに良く知られていることであり、患者さんご本人や、お子さんがアトピー性皮膚炎であるご両親であればなおのこと、すぐに症状が思い浮かぶことでしょう。

この乾燥症状の発端に皮膚のバリア異常が関与していることは昔からいわれており、さかのぼれば、初めての記載からすでに30年以上の月日が経っていると思われまます。しかしながら、では「なぜ乾燥しやすいの？」という素朴な疑問に対するはっきりとした答えは今までありませんでした。

ところが、最近になり大きな発見がありました。それは、多くのアトピー性皮膚炎患者さんに「フィラグリン」という遺伝子に異常があることがわかったのです。フィラグリン・・・日常で聞くことのない単語ですが、役割はごく簡単。皮膚の一番外側にある角質細胞の中で潤いを保ったり、紫外線を吸収するために働いています。角質層は体の最外層にあり、手でも触れることのできる皮膚の一部。実は表皮細胞が死んでできた、いわば細胞の抜け殻が連結し合っていてできています。健康な角質層は日本の屋根瓦のようにお互いしっかり重なり合っていて体外からの異物の侵入を防いでいますが、このフィラグリン遺伝子に異常が起これると、角質細胞の本来の機能が損なわれ、細胞同士の重なり合いが弱まって屋根瓦がはがれ出し、いたるところに穴が空いた状態になってしまうのです。結果として雨漏りのように、皮膚に空いた多数の穴から皮膚に触れる物質、すなわちイエダニ、ハウスダストや花粉、カビなどが侵入し、アレルギーとなって皮膚炎の増悪を招くのです。

何とかしてそれらの侵入門戸を塞いでしまいたいですね。アトピー性皮膚炎患者さんや、患者さんのご家族ならだれしもが望むことです。そこで、保湿剤の出番です。これまで私たち皮膚科医は、患者さんに保湿や乾燥予防のために保湿剤の使用をお勧めしてきました。もちろんその考え方は変わりません。しかし、これからはさらにそこから一歩進んだ考え方、すなわち保湿剤に皮膚のバリア機能も期待し、皮膚から侵入しようとする様々なアレルギーを阻止しようと考えようになりました。フィラグリン異常による皮膚のバリア機能の低下は1年を通していつでも起こっています。保湿剤を春夏秋冬欠かず外用して、外敵＝アレルギーから皮膚を守りましょう！！

